



導水渠 ©小野吉彦

社製のヴェンチュリーメーターが1基残されています。円形管の北側には水槽を接続しています。

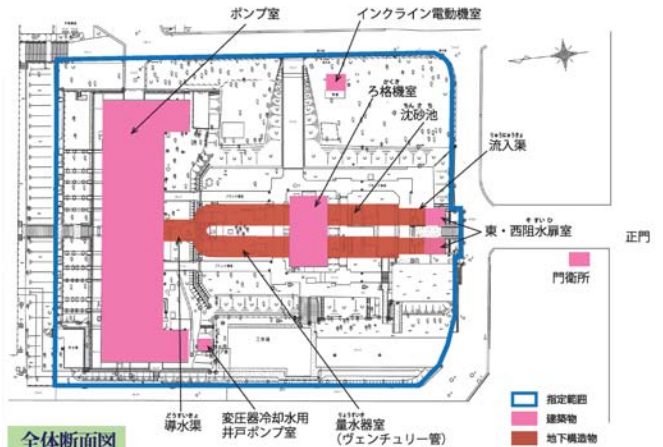
唧筒室暗渠は、導水渠、止水扉室、唧筒井及び唧筒井接続暗渠などが連結したもので、いずれも鉄筋コンクリート造です。地下にあるため残念ながら普段は見る事が出来ませんが、導水渠の断面は馬蹄形アーチ、中央を少し窪ませた床面には硬く焼いた陶板タイルが敷き詰められた見事なものです。導水渠北側には止水扉室が接続し、鉄製の巨大な止水扉を見ることが出来ます。止水扉室を中心に唧筒井が東西に5基ずつ配され、唧筒井同士は南北2列の唧筒井接続暗渠でつながっています。この唧筒井で汲み上げられた汚水は、唧筒室北側の送水管から、次の沈殿池へ送水されました。

⑤唧筒室

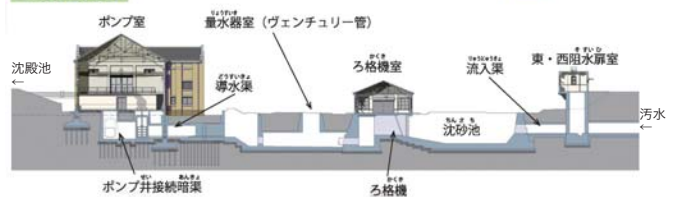
唧筒室は、下水を唧筒井から沈殿池に揚水するための唧筒を収容、操作するための建築物です。東西68.3m×南北15.5mの、中に柱のない巨大な空間です。鉄骨及び鉄筋コンクリート造、寄棟造で、両端に短い翼部を張り出します。両翼張出部は3階建て、東には事務室、西には変電室などがありました。煉瓦積または煉瓦タイル貼の美しい外観に、縦長窓やアーチ形窓などを規則的に配するデザインで、当時日本に入ってきたばかりのセセッション様式の影響が見られます。この唧筒室の設計は、東京高等工業学校教授で東京市嘱託技師であった土居松市が手がけました。

建物の小屋組は、下弦をアーチ形にしたプラットトラスの連なりが見事です。また柱上部には、作業に必要な天井走行型の揚重機が設けられてい

重要文化財指定建造物の配置



全体断面図



ます。揚重機は当時のもので、「株式会社 東京石川島造船所 大正9年製造」「六噸半(=6.5トン)」とあり年代を感じます。

花と緑の三河島水再生センター

いま、都電荒川線の荒川二丁目停留所で電車を降りると、『祝 重要文化財指定 旧三河島汚水処分場唧筒場施設 ～わが国最初の近代下水処理場～』の長い横断幕と、その向こうの大きな煉瓦の建物が目に入ります。この敷地の中が、現在の三河島水再生センターです。停留所からセンターの入口までは、バラが植えられた遊歩道を歩いて5分ほどです。

芝生と高い樹木に囲まれた唧筒場の周辺は美しく、春は桜の名所としても有名です。

水再生センターや、重要文化財 旧三河島汚水処分場唧筒場施設の見学を希望される方は、下記までお問い合わせ下さい。

問い合わせ先

〒116-0002 東京都荒川区荒川8-25-1
電話 03-3802-7991
東京都下水道局三河島水再生センター